



道路大會錄事

本會主催道路大會は、十月二十五、六の兩日に亘つて大阪市中ノ島公會堂に於て開かれた。水野會長が出席して會務を統理する、筈であつたが、本年の夏病を得られまだ全快の運に至らないので、本會からは次の諸氏が出席した。

同 佐藤 利恭
 同 岩澤 忠恭
 同 都筑 通督
 同 小島 效

會長代理理事 長岡隆一郎
 常務理事 唐澤 俊樹

理事 中川 吉造
 理事 前川 貫一

同 中川 正左
 同 筧 正太郎

同 牧 彦七

幹事 牧野雅樂之丞
 幹事 武井 群嗣

同 田中 好
 同 三浦 七郎

道路大會

來賓には大阪府知事縣忍君を始め大阪市長關一君其の他大阪府市の總ての幹部、大阪府選出貴衆兩院議員、大阪府市會正副議長、大阪府市政關係新聞記者、夫れから隣接府縣知事等地方有力者二百七十四名の多きに達した。參加者は北海道を始め總ての各府縣は勿論臺灣朝鮮等から推薦された者千二百七十五名の多きに達し、衆議院議員を始め市町村長等の顔振れが頗る多かつた。

第一日

中央公會堂前面に掲げられた「道路大會々場」の大看板を目的に午前九時開會と言ふのに八時頃から集る者既に數百名の多きに達し、豫て此くあるべしとは用意してあつたものゝ受附係は少々慌て氣味である。定刻には一階大集會室は眞に立錐の餘地もない、早く開會せよとの拍手は堂の各方面より要求され、其の盛大なこと筆舌のよくするところではなかつた、此盛況を見て人知れず嬉し泣きに涙を催した幹事があつたのも無理ではない。

中川吉造理事起つて開會の辭を述べ、道路改良會が始めて道路大會開催の計を定め、其の第一回を經濟の都大阪市に於て開くに至つたことを告げ、會長代理として長岡理事を煩す旨を報ずれば、長岡理事は會長病氣の爲に會長代理を爲す旨を告げて左の挨拶があつた。

會長代理挨拶

本日茲ニ道路大會ヲ開催シマシタトコロ此ク多數各位ノ

御來會ヲ得マシタコトハ私ノ寔ニ欣幸トスル所テアリマス、想フニ道路ハ吾々國民ノ日常生活ト緊密ノ關係ヲ有スルモノテアリマシテ、之カ良否ハ國運ノ消長ニ影響スル所頗ル甚大テアリマスコトハ今更申上ケル迄モナイノテアリマス、從テ常ニ善良ナ道路ヲ維持シテ交通ノ圓滑ヲ期シ、道路ノ效用ヲ擧ケシムルコトハ重要ナ施政ト言ハネハナラヌノテアリマス、然ルニ我國道路ノ大部分ハ往昔ノ施設ニ係ルモノテアリマシテ、近代交通ノ要求ニ順應スルコトカ出來ナイ憾カアルノテアリマス、故ニ之ヲ改善シテ國利民福ノ増進ヲ期スルコトハ喫緊ノ要務テアリマス。

本會ハ汎ク道路改良ニ關スル方策ヲ講究シ、道路ノ完備ヲ促進スル目的ヲ以テ大正七年ニ設立シタノテアリマス、爾來此目的ヲ遂行スルカ爲ニ各種ノ事業ヲ執行シマシタ。彼ノ東京市路面改良ニ關スル調査研究ノ如キ或ハ東海道其ノ他重要國道改良計畫ノ樹立ノ如キハ普ク人ノ知ル所テアリマス、或ハ講演會講習會ヲ開催シテ道路改良ニ關スル世論ヲ喚起スルト、同時ニ道路ニ關スル學術ノ普及ニ力メ、時

ニハ政府ニ建議シテ道路政策ノ樹立ト其ノ實現ヲ迫ル等、創立後今日マテ十有五年ノ間專ラ道路ノ改良ニ力メ來ツタノテアリマス、今回開催シマシタ道路大會モ亦叙上ノ目的ヲ有スルモノテアリマシテ、道路ニ關スル智識ヲ交換スルト同時ニ、道路改良ニ關スル國民大衆ノ希望ヲ表明シテ、之カ實現ヲ期セムトスルニ外ナラナイノテアリマス。

想フニ道路交通用具トシテノ自動車ハ、國內工業ノ進歩發達ト原油ノ圓滿ナ供給トニ依ツテ益増加スルノ趨勢ヲ示スニ至リ、之カ利用スヘキ道路ノ施設ニ關シマシテハ、本年ノ計畫ヲ以テ明年ノ要求ヲ満足セシムルコトカ、出來ナイ様ナ狀態デアリマス、從ツテ交通ノ實際ニ即シタ道路政策ヲ實行スルコトハ、所謂非常時國家ノ採ルヘキ緊急ノ時務デアリマス、政府ニ於テモ交通審議會又ハ土木會議ヲ設置シテ、道路政策ノ改訂ヲ行ハムトスルノモ矢張り叙上ノ趣旨ニ外ナラナイノテアリマス、此時ニ於テ本會カ國民大衆ノ聲ヲ政府ニ傳ヘテ其ノ實現ヲ迫ルノモ此機ヲ逸シテハナラヌノテアリマス、政府ハ大正八年以來道路ノ改善ニ力

メテ來タノテアツテ、相當ノ成績ヲ見ルコトカ出來ルノテアリマスカ、未タ以テ十全ト言フコトノ出來ナイノハ各位既ニ御承知ノ通りデアリマス、彼ノ國道以下道路ノ選擇方針ノ如キ、或ハ管理又ハ費用負擔ノ如キハ更ニ檢討シテ時運ノ趨勢ニ適シタ適正ナ制度ニ改訂ヲ要スル次第デアリマスカラ、本會議ニ於テ諸君カ路政ニ關シ抱懷セラルル所ヲ論議サレ、本大會ヲ開催シタ本會ノ目的ヲ貫徹セシメラレムコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス。

終リニ本大會ノ開催ニ關シテハ大阪府市關係者當局ノ多大ナ御援助ト、京都、兵庫、奈良、和歌山、滋賀各府縣ノ後援ヲ得、又セメント同業會カ本事業ノ爲ニ寄與サレタコトハ本會ノ頗ル満足スル所デアツテ、諸君ト共ニ以上ノ諸氏ニ對シ感謝ノ意ヲ表シタイト存スル次第デアリマス、簡單ナカラ之ヲ以テ開會ノ挨拶ト致シマス。

次で武井幹事は左の内閣總理大臣の祝詞を披露した。
御盛會ヲ祝シ益國家ノ興隆ニ貢獻セラレンコトヲ望ム。

内閣總理大臣 齋 藤 實

次て内務大臣の祝詞を唐澤土木局長代讀せられ、夫れから大阪府知事、大阪市長、大阪府會議長、大阪市會議長及大阪商工會議所會頭から左の祝詞があつた。

内務大臣祝辭

道路改良會主催第一回道路大會ノ開會ニ當リ一言所懷ヲ述フルノ機會ヲ得タルハ余ノ欣幸トスル所ナリ

抑モ交通機關ノ普及發達カ國運ノ降替ニ影響スル所極メテ大ナルモノアルハ言ヲ俟タス就中國民ノ日常生活ニ密接ノ關係ヲ有シ其ノ良否カ産業ノ開發文化ノ進展ニ至大ノ關係ヲ有スル道路ヲ整備シ之ヲ改善シ以テ時代ノ要求ニ適合セシムルハ極メテ喫緊ノ要務タルヲ信ス道路法制定以來十

有五年我國路政ノ面目漸ク更マリ築造技術亦格段ノ進展ヲ示シタリト雖輓近急激ニ増加セル自動車ノ發達ト之ニ依ル交通距離ノ擴大トハ今日ニ於ケル道路ノ系統及構造ヲ以テシテハ未タ以テ其ノ需要ニ應スルコト十全ナリト謂フ能ハス如何ニ之ヲ統一シ如何ニ之ヲ改良スルカハ今後ニ於ケル道路政策ノ主要ナル懸案タリ此ノ秋ニ當リ多年路政ノ發達

ニ貢獻シタル道路改良會カ全國道路大會ノ開催ヲ計畫シ我國道路思想ノ歸一セントスル所ヲ攻究スルト共ニ道路ノ當局並各種關係者ノ輯睦ニ資セントス

眞ニ我カ路政史上ニ於ケル劃期的事業ナリト謂フヘシ願フニ路政ノ前途ヤ多難ニシテ研究ヲ要スル事項尙山積ス本大會ニ於テ付議審理セラルル所向後ノ改革進展ニ寄與スルコト極メテ大ナルモノアルヘシ冀クハ淬勵相努メ克ク本會開會ノ趣旨ヲ發揚シ以テ我國交通上ニ貢獻セラレンコトヲ聊カ所懷ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和八年十月二十五日

内務大臣男爵 山本達雄

大阪府知事祝辭

道路改良會其ノ第一回道路大會ヲ我國經濟ノ中樞タル吾カ大阪ニ開催セラルルニ方リ一言祝意ヲ表スルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

惟フニ道路ハ國民活動ノ命脈ニシテ産業ノ開發經濟ノ振興一ニ係ツテ之カ發達ニ俟ツト共ニ國防上至大ノ關係ヲ有

スルコト言フ俟タス然ルニ我國道路ノ現況ヲ見ルニ他ノ交通機關ノ著シキ進歩ヲ示セルニ比シテ未タ甚シク遜色アルヲ免レス之ヲ都鄙ニ通シテ其ノ施設ヲ改善シ道路網ノ統一整備ヲ期スルハ國運ノ隆昌ト公衆ノ福利トニ至大ノ影響ヲ有シ我國現下ノ國策中最モ重大ナル方策ヲラスンハアラス殊ニ近時路面ヲ利用スル快速力運輸機關ノ普及發達ニ伴ヒ道路ノ文明利器トシテノ價值ハ更ニ愈々顯著ナルモノアリ之カ改良ハ一日モ之ヲ曠シウスヘカラサルノ情勢ニ在リ之ヲ以テ今ニ及ンテ道路ノ政策ヲ確立シ之カ普及ト徹底ヲ期スルハ國家百年ノ大計ニシテ道路改良會カ茲ニ大會ヲ催シテ道路各般ノ要務ヲ研究論議シ其ノ所信ニ邁進セントスルハ極メテ時宜ヲ得タル舉ニシテ斯界ノ進運ニ資シ之カ完備ヲ促進スルニ與ル所大ナルモノアラン

今ヤ我國ノ時局ハ重大ニシテ前途甚タ多難ナルモノアリ須ラク富強ノ基ヲ啓イテ國力ヲ内ニ培ハサルヘカラス希クハ來會者各位宜シク思フ此ノ世運ノ推移ニ致シ慎重協議ヲ遂ケラレ本會ノ意義ヲ擴充スルト共ニ益々研鑽其ノ所期ノ

目的達成ニ精進セラレンコトヲ開會ニ臨ミ欣躍ニ勝ヘス所思ヲ披瀝シテ祝辭トス

昭和八年十月二十五日

大阪府知事 縣 忍

大阪市長祝辭

本日茲ニ全國道路大會ヲ舉行セラルルニ當リ一言所懷ヲ述フルハ最モ欣幸トスル所ナリ

道路改良會ハ設置以來十有餘年道路改良事業ノ進展ニ貢獻セラレタル所頗ル大ナルモノアリ今回始メテ同會主催ノ下ニ當地ニ於テ全國道路大會ヲ開催セラレタルハ本市ノ大ニ光榮トスル所ナリ

惟フニ道路ハ交通機關ノ大宗ニシテ其ノ計畫ハ産業ノ發達並ニ地方交通ノ狀況ニ鑑ミ路線ノ選定及構造ノ内容等總テ時代ノ要求ニ合致セシメ將來ノ發展ニ適應スルヲ要シ之カ施設ノ至難ナルハ言フ俟タス方今我國ノ道路改良事業ハ僅々十數年ノ短期間ニ於テ能ク道路ノ機構ニ一新機軸ヲ劃シ道路關係法令ヲ整備ヲ見タルト共ニ一面技術の進歩ノ顯

著ナルモノアリ且近時財界ノ不況ニ際シ道路工事ノ施行ニ依リテ多數ノ失業者ヲ救濟シ得タルハ誠ニ機宜ニ適シタルモノニシテ今回萬國道路會議ノ開催ニ當リ本會ヨリ率先シテ道路施設ニ關スル意見書ヲ提出スルニ至レルカ如キハ畢竟會員各位ノ不斷ノ努力研鑽ト國民ノ熱誠ナル援助ノ資ニ外ナラス衷心慶賀ニ甚ヘサル所ナリ然リト雖モ我國ノ道路改良事業ハ未タ以テ完成ノ域ニ達シタルニアラス之ヲ歐米諸國ニ比スルトキハ未タ遜色ナキ能ハス

翼クハ本會所期ノ目的ヲ達シ今後一層其振興ニ努メ國家ノ爲益々貢獻セラレンコトヲ一言叙シテ祝辭トス

昭和八年十月二十五日

大阪市長 關

一

大阪府會議長祝辭

本日茲ニ道路改良會主催第一回道路大會ヲ開催セラルルニ際リ一言祝意ヲ表スルハ深ク欣幸トスル所ナリ

惟フニ一國ノ産業ヲ開發シ、國民ノ福利ヲ増進スルノ途、固ヨリ多々アルヘシト雖モ、各種交通機關ノ整備ニ俟ツヤ

頗ル大ナルモノアリ。就中最モ普遍的ニシテ且ツ主要ノ交通機關タル道路ノ改良普及トコレカ全國の道路網ノ統一整備トヲ圖ルハ産業軍事上刻下ノ最重要事ナリトス

大正八年始メテ道路法施行以來政府當局銳意國道ノ改修計畫ヲ進メ地方亦府縣道以下各道路施設ノ充實改善ニ努力シ、ソノ進歩改良ノ跡見ルヘキモノアリト雖モ之ヲ歐米先進國ノ夫レニ比センカ、尙ホ未タ不備不完全ニシテ殆ント言フニ足ラサルノ實狀ニ在ルハ吾人ノ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ

道路改良會ハ我國道路政策上一新紀元ヲ劃セル道路法施行ト相前後シテ組織セラレタルモノニシテ全國ニ於ケル斯界ノ權威者ヲ網羅シ爾來今日ニ至ルマテ汎ク道路ノ改良ニ關スル方策ヲ講究シテ要路ニ建設シ或ハ毎月機關雜誌ヲ發行シテコレカ指導啓發ニ資スル等、我國道路改良上貢獻スルトコロ尠少ナラス、今次百尺ノ竿頭更ニ一步ヲ進メ、第一回道路大會ヲ産業ノ都市タル我大阪市ニ開催シ、遠ク全國ノ同志ヲ一堂ノ下ニ會シテ幾多ノ重要條件ヲ研究討議ス

ルノ外、完成セル京阪神各地ノ新道路ノ視察ヲ行ヒ、以テ本會趣旨ノ普及徹底ニ努ムルト共ニ益々道路改良ノ使命ニ邁進セントス。誠ニ時宜ニ適シタルノ盛舉ニシテ邦家ノ爲メ慶賀ニ任ヘス

希クハ參加會員諸氏、今次ノ大會ニ於テ得ラルヘキ貴重ナル資料ト不斷ノ研鑽トニ依リ向後益々各地方ニ適切ナル道路施設ノ改良ニ努メ、以テ國民利福ノ増進ニ寄與セラレシコトヲ。盛會ニ臨ミ一言所懷ヲ叙シテ祝辭トス

昭和八年十月二十五日

大阪府會議長 辻阪信次郎

大阪市會議長祝辭

本日全國道路大會ヲ我カ大阪市ニ於テ開催セラル、ニ方リ祝辭ヲ呈スルヲ得タルハ寔ニ光榮トスルトコロナリ

惟フニ道路交通施設ノ改良完備ヲ期スルハ國家經濟産業上最モ緊切重要ナル問題タリ近時都市日進ノ膨張發展ハ都市計畫事業ノ遂行ト相俟ツテ道路網ノ確立スルヤ脈絡系統按配其ノ宜シキヲ得、都市ノ構成諸施設ノ統制ハ高速度交

道路大會

通機關ノ發達ト共ニ著々劃期的現象ヲ呈シ他面郊外地トノ連絡、農村道路ノ改良ト有機的ニ渾然トシテ長足ノ進歩發展ヲ遂ケツ、アルハ慶賀措ク能ハサルトコロナリ

道路改良會ハ多年道路問題ノ研究調査ニ權威アル機關シテ本邦文化經濟産業上ニ貢獻スルトコロ少カラス而シテ國際道路會議ニ本大會ノ結果ヲ公表シテ優秀ナル成果ヲ世界ニ誇示セラルルアルハ邦家ノタメ欣快禁セサルモノアリ時正ニ明徹ノ秋希クハ慎重審議以テ偉大ナル實績ヲ收メラシコトヲ尙會議後近畿ノ野ニ快適完備セル道路ヲ馳驅周回シ視察檢討以テ錦上更ニ華ヲ添ヘラレントス裨益スルトコロアルヲ信シテ疑ハス

茲ニ萬腔ノ祝意ヲ表シ併セテ本會前途ノ隆運ヲ祈ル
昭和八年十月二十五日

大阪市會議長 川 畑 清 藏

大阪商工會議所會頭祝辭

本日茲ニ道路大會ヲ開催セラル寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ惟フニ道路ノ良否ハ一國文化ノ向上發展ニ至大ノ影響ヲ

七五

及ホスモノナルハ敢テ言フ俟タサルナリ近時日進ノ大勢ニ從ヒ我國ノ道路亦年ト共ニ改修セラレ今ヤ邊陲僻地ニ至ルモ運輸交通ノ便開ケ行旅亦險尠キニ至リタリト雖モ坦々砥ノ如キ歐米各國ノ道路ニ比シ未タ概ネ一籌ヲ輸スルノ感アルハ吾人ノ常ニ頗ル遺憾トスル所ナリ此時ニ當リ我國重要産業都市ニシテ道路ノ完備ヲ最モ緊要トスル大阪ニ於テ道路大會ヲ開催シ朝野ノ權威者各位相會シ幾多ノ重要案件ヲ慎重審議シ或ハ各地道路ノ視察討究ヲ行ヒ以テ我國道路ノ改善發達ニ貢獻セラレントス洵ニ機宜ニ適シタル好企圖ニシテ其ノ齎ス效果ノ甚大ナルモノアルヲ信ス

冀クハ關係各位ハ克ク和衷協同本會所期ノ目的ヲ達成シ以テ我國文化ノ向上ト國運ノ隆昌ニ寄與セラレントヲ茲ニ一言陳ヘテ祝辭トナシ併セテ列席各位ニ深厚ナル敬意ヲ表ス

昭和八年十月二十五日

大阪商工會議所會頭 稻畑勝太郎

次で研究事項に關し、内務省の若手技師が研究したとこ

ろを發表した、即ち其の内容は左の通りである。

研究報告

一 セメント系舗装ニ就テ

提出者 内務技師 永田年君

要旨

セメント系舗装ニ關スル試験研究及理論ニ立脚シ已設舗装ノ材料、構造、施工及經濟價值ニ關シテ論述セルモノニシテ之ニヨリテ次ノ如キ結論ヲ得タリ

一、本邦交通ノ性質ニ對應スル爲ニ二層式舗装トスルヲ要シ下層ノミハ經濟的ニ得易キ地方材料ヲ用フヘキモノトス

二、配合ハ鐵輪交通ガ次第ニ自動車交通ニ變化シツ、アル趨勢ニ伴ヒ上層ハ膠石ニ比シテ次第ニ「コンクリート」ヲ用フルニ至リタル經過ヲ論シ

三、「セメント」ノ品質ノ向上ニ伴ヒ、舗装「コンクリート」ノ強度ノ著シク増大シ得タルカ故ニ養生期

間ヲ短縮シ得テ鋪裝ノ發達ヲ促進シタル事ヲ論シ
四、路面ノ横斷勾配ニ關シテハ、理論並ニ之ニ立脚シ
テ適用スヘキ標準ヲ定メ

五、目地ノ構造ニ關シテハ已設鋪裝ノ目地ノ間隔ト龜
裂トニ關シテ周到ナル觀測ヲ遂ケ之ニヨリテ總テ
伸縮目地ノ構造トスヘキ事ト合鈎目地ノ如キヲ避
ケテ簡單ナル構造トスヘキヲ論シタリ

六、鋪裝版ノ内應力ハ氣象作用ノ影響ニ對應スル版ノ
表裏面ノ溫度差ニ基クモノ、版ノ平均溫度ノ變化
ニ基クモノ、「コンクリート」ノ硬化收縮ニ基ク
モノト交通荷重ニ基クモノトノ綜合シタルモノニ
シテ之等ハ冬期最大トナリ龜裂發生ノ機會多キヲ
理論的ニ明カニシ更ニ版ノ大サニヨリ異リ、廣キ
版ハ冬期縱龜裂 狹キ版ハ同シク横龜裂力發生ス
ル機會多キヲ立證シ實地觀測ノ結果ト一致スルヲ
明ニセリ

七、滑り止工法ニ關シテハ勾配ニ應シテ三種ノ工法ヲ

舉ケ更ニ在來路面ノ磨耗シテ滑面トナリタルモノ
ノ處置トシテ瀝青混合物ヲ以テ被覆スヘキ工法ヲ
論究セリ

八、本邦ハ「セメント」年産額二百八十萬噸ニ達シ世
界第二ニ位シ、骨材トシテハ火成岩ノ優秀ナル碎
石及硬質石灰岩、河川ノ優秀豐富ナル砂利砂ヲ產
シ何レモ比較的安價ナルヲ以テ「セメント」系鋪
裝ノ普及ヲ促進シソノ養生材料モ農業國トシテ藥
蕈ヲ用ヒ交通ノ性質ニ對應スル二層式構造ヲ採リ
特色アル工法ノ發達ヲ遂ケ將來益々發達スヘキコ
トヲ論セリ

二 瀝青質鋪裝ノ發達トソノ經濟的工法ノ選定

提出者 內務技師 岩澤 忠 恭君

要 旨

瀝青質鋪裝ニ關スル理論及研究調査ノ結果ニ基キ(1)本
邦瀝青質材料ノ生産能力ト其生産設備トニ就テ、瀝青

質舗装ノ將來發達スヘキ所以ヲ論シ、(2)本邦ニ於ケル氣候風土ニ適應スヘキ瀝青質舗装ノ選擇特ニ都市街路ノ滑止メ工法ニ就テ經濟上ノ結論ヲ立テ、(3)本邦ニ於ケル交通情勢並ニ府縣財政ノ實狀ヨリ見テ將來發達スヘキ瀝青質舗装ノ經濟的工法ニ就テ論究シ、高級舗装トシテノ「シートアスファルト」舗装「アスファルトコンクリート」舗装、簡易舗装トシテ「アスファルト」油、「アスファルト」乳劑等ヲ用ヒタル舗装ニ就テ特色アル工法ヲ論究シタルモノナリ

トノ關係ヲ闡明シ、從來施工セル路面工ハ二十餘種ニ及ブモ其ノ中最モ普遍的ト見做シ得ルモノハ「シート・アスファルト」、「アスファルト・コンクリート」、瀝青塗裝、木塊、「セメント・コンクリート」及砂利道ノ六種ニ過キササルヲ以テ是等ニ就テ道路運輸費ノ比較研究ヲ爲シ、自動車交通量ノ多寡ニ應シ何レノ工法カ最モ經濟的ナルヤノ結論ニ達セントセルモノナリ
尙參考トシテ東京市ニ於テ最モ經濟的ト認メラルル路面ノ築造並ニ維持修繕方法ヲ記載セリ

三 街路又ハ地方道ノ路面ヲ最モ經濟的條件ノ下ニ築造及維持スルニ有效適切ナル方策

提出者 内務技師 三浦七郎君

要旨

路面工種選定ニ際シ攻究スヘキ基礎的理論ヲ詳述シタル後、本邦ニ於ケル交通及舗装ノ現況並ニ工法ヲ概説シ、路面築造費、維持費、車輛運輸費及交通量ト舗装

四 交通保安上ヨリ見タル道路施設ノ一般ニ就テ

提出者 内務技師 佐藤利恭君

要旨

本報告中(1)交通整理方式ニ就テハ分路式、一方交通式、循環式及斷續式ノ四種ノ方法ヲ定メ、之ガ採擇方法ヲ指示シ、交通保全上最モ重大性ヲ有スル交通信號ニ就テハ先ツ以テ信號色ノ意義ヲ明確ニ定メ且ツ從來極メ

テ不統一ナリシ信號色ノ組合セ、配列方法ヲ統制確立

シ、(2)一般交通制度ニ就テハ停車、駐車及轉廻方法等道路使用上必要ナル諸制限ヲ設ケ以テ自動車取締令ノ改正ニ資シ、(3)交通標識ニ就テハ其ノ形狀色彩ニ依リテ直ニ其ノ標識ノ意義ヲ看取シ得ルヲ原則トシテ既ニ定メラレタル標識ノ一部ノ改正ヲ促シ、未タ定メナキ標識ヲ新ニ制定シタル等專ラ標識ノ統一ヲ圖リ、道路構造ニ就テハ道路法令中ニ定メナキ新規ノ標準規格ヲ制定シ交通保安ノ確保ニ勉メ特ニ踏切ニ關シテハ之ヲ立體交叉ニ改ムヘキ機運ヲ促進スル爲メ踏切ニ於ケル經濟的考案ニ基ク算式ヲ提示シ、以テ將來ニ於ケル踏切改善ニ資スル所アリタリ

五 運輸交通ノ經濟的見地ヨリ見タル車輛ト車道路面トノ相互的關係並ニ交通ニ起因スル凡ユル種類ノ損傷被害ヲ最小限度ニ減スル對策ニ就テ

提出者 內務技師 藤井眞透君

道路大會

要 旨

一、運輸交通ノ經濟的見地ヨリ見タル車輛ト車道路面トノ相互的關係ニ就テ

各種輪帶ノ路面ニ及ス影響、路面凹凸係數ト索引抵抗及衝擊示數トノ關係、索引抵抗トガソリン消費者トノ關係並ニ路面輪帶ノ磨耗等ノ運輸經濟價值ヲ明ニシ、之ニヨリテ鐵輪交通ノ路面ニ及ホス作用ノ顯著ナル事及鋪裝路面ノ經濟價值ノ優越セル所以ヲ科學的ニ明ニシ砂利道ノ路面凹凸係數ハ一籽ニツキ四〇〇糎以下タラシムヘキ結論ヲ得タリ

二、交通ニ起因スル凡ユル種類ノ損傷被害(振動噪音等)ヲ最小限度ニ減スル爲メ技術的、法令上並ニ管理上ノ對策

路面振動ニ關シテハ車輪及速度ト路面トノ關係トヲ明ニシ、衛生的見地ヨリ道路上ノ塵埃發生ノ性質之ニ及ホス撒水ノ效果ヲ明カニシ、噪音ニ關シ

テハ音源トシテノ車輛ノ及ホス噪音ノ大サ並ニ街路噪音ノ性質ヲ明ニシ、之等ノ損傷被害ヲ減スル爲ニ制定セラレタル現行法規ヲ參照シテ更ニ進ンテ將來ノ對策ヲ立ツヘキ所以ヲ論究セリ

六 車輛ノ許容重量(自重ト積載量)、車輛ノ幅員、高サト其ノ積荷、車輛ト長サト積荷ニ關スル現行規定ノ得失並ニ此等諸規定ノ國際的統一ニ就テ

提出者 内務技師 牧野 雅樂之丞君

要 旨

車輛ノ重量大サ並ニ積荷等ニ關シ適當ナ制限ヲ設クルコトハ道路ノ保持交通保安運輸經濟上極メテ必要ナコトトス。然シテ我國現行ノ車輛許容重量中自動車ノ重量ハ低キニ失シ自動車ノ運輸經濟上甚シク不都合ナルモノナリトスレトモ一面道路橋梁ノ狀態ヨリスレハ止ムヲ得サリシモノナリ而シテ目下道路構造令、道路構造細則等一定ノ設計標準ヲ定メ之ニ準據シテ道路ヲ改

良シツツアルヲ以テ之レカ完成ト共ニ目下ノ不都合ヲ除去サルルモノト信ス牛馬車、手車等ニ關シテハ人畜ノ能力車輛ノ構造ト道路ノ現狀ヨリシテ適正ヲ失セルモノナリ。車輛ノ大サト積荷ニ關シテハ道路改修ノ進行ニ伴ヒ將來多少ノ變更ヲ必要トスルモノアルヘント雖モ大體我國ノ國情ヨリシテ適正ナルモノトス之等諸規定ヲ國際的ニ統一スヘキヤ否ヤニ關シテハ其ノ統一ノ實行セラルルニ於テハ交通經濟上利益スル所尠シナラスト信スレトモ各國共道路狀態交通狀態ヲ異ニスルノミナラス經濟狀況ヲ異ニシ風土慣習等生活狀況ニ至ル迄夫々相異ナルヲ以テ之ヲ國際的ニ統一スルコト至難ノコトナリトス

七 東京市ニ於ケル道路鋪裝ノ普及ニ就テ

提出者 東京市技師 堀 信 一君

要 旨

東京市ニ於ケル道路鋪裝ノ經過ヲ述ヘ經濟的鋪裝トシ

テハ簡易鋪裝ノ得策ナルコトヲ説キ鋪裝シタル爲ニ齎
シタル利益ヲ擧ケ現在採用セル鋪裝工種ニ付其ノ得失
ヲ説明スルモノトス

研究事項の報告が終ると、一同は三階大食堂に於て本會
主催の午餐會に臨むだ、千數百名の多きに達する者が一堂
に會して路政を談しながら食事を共にしたことは恐らく我
國に於ては始めてとあつたであらう、會長代理長岡理事は
左の挨拶を述べた。

道路大會ニ豫想外ニ多數ノ出席者ヲ得マシタコトハ、
私ノ満足スルトコロテアリマス、本會ノ目的ヤラ從來執
行シマシタ事業ニ付キマシテハ、午前中ニ申上ケタトコ
ロテアリマスカラ再言ハ致シマセヌ、本會ノ目的トスル
事業ヲ執行政シマス爲ニハ相當ノ資金ヲ必要トスルノテ
アリマスカ、實ノトコロ本會ノ財政ハ餘リ豊富テハナイ
ノテアリマス、之ヲ露骨ニ申上ケマスレハ會員ノ寄付金
ト雜誌收入ノ一部トヲ以テ經營シテ居ル状態テアリマス
現在ニ於キマシテハ會員八百名ヲ算スルノ状態テアリマ

シテ、其ノ積立金ヲ居喰シテ居ルノテアリマス、幸ニシ
テ諸君カ今回ノ大會ニ出席サレタノヲ機會ニ、本會ノ目
的ヲ御諒解願ツテ御入會ヲ得タナラハ定ニ幸福トスルノ
テアリトス、本會ノ財政右ニ述フルカ如キ有様テアリマ
スカラ、本席ノ御招待モ不十分テアリマシテ、萬事不行
届ノ點ハ御寛恕ヲ願ヒタイノテアリマス、併シナカラ資
金ノ不如意ハ別トシ、吾々本會ノ役員一同ハ萬難ヲ排シ
テ我國路政進展ノ爲ニ努力スルノ確信ヲ有シテ居ルノテ
アリマス、其ノ確信ヲ一層強調スルカ爲ニハ諸君等ノ如
キ路政ニ熱心ナ各位ノ御援助如何ニアルノテアリマスカ
ラ、此後トモ本會々務進展ノ爲ニ御援助ヲ希望シテ己マ
ナイノテアリマス。

右に對し大阪府知事縣忍氏は、道路改良會が我國路政の
爲に貢獻して來た多大の事蹟を稱え、道路改良會の偉大な
勢力は遂に今日の盛大な會合を以てして知ることが出来る
今回第一回の道路大會を特に大阪に於て開かれたことは、
吾が大阪市として寔に光榮とするところである、將來益努

力されて吾が路政の進展に邁進されたいと挨拶し、吾が會を激勵された。午餐會を終つて午後一時三十分から議事を開き、建議事項を附議した。

長岡理事議長に就き左の開會の辭を述べられた。

「午前に引續きて開會致します、お手許に配付してあります所の第一回道路大會附議事項中の建議事項に就て之より審議を進めたいと思ひます、尙ほ一寸御斷りを申しておきますが今回は初めての經驗で御さいます爲めに斯の如く多數の御來會者があり、斯の如く多數の問題が提出されると云ふことを前以て豫期して居りませぬ爲に審議の時間が甚た乏しいのであります、之れは理事者として初めての經驗であります、故に或は問題を討論致しまする上に於て眞劍味を欠くと云ふ様な嫌がありませんかと云ふことを恐れるので御座いますが、折角各地方から遠路お集りになり、問題を御提出になつたことであります故に出來得るならば總ての問題に就て提出者の意見を承り、之に對して賛否を決めたいと思つて居ります

故に甚だ恐縮であります但提案者の説明は成るべく簡單明瞭にいたしたいと思ふのであります、此の事は理事者が不熟れであります爲に、初めての經驗でありますか爲に時間の割當が少かつたことに就て御詫び致します繰り返して申します様に折角提出になつた問題でありますから各提出者より一々議案の説明を願ひ討論いたしたいと考へます、尙甚失禮でありますが多數の爲議長として一々御顔を存して居りませぬからどうぞ發言をお求めになる方は御迷惑であります其の縣市町村の名と御氏名とを御仰しやつて戴きたいと思ひます、夫れでは第一案から御説明を願ひます。」

議案の内容は左の通りであつて、提案者か順次登壇して

説明した。

建議事項

- 一 國道ニ認定スヘキ路線ノ範圍ヲ擴張方政府ニ建議スルノ件

提出者 京都府

和歌山縣

群馬縣 戶部彪平君

外二名

二 府縣道路線認定ノ範圍ヲ擴張方政府ニ建議スルノ件

提出者 沖繩縣知事

埼玉縣

三 國道ノ改築及維持ハ總テ國費ヲ以テ施行セラレムコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 大阪府

京都府

熊本縣 土木課長

石川縣

山形縣

兵庫縣

埼玉縣

岡部榮信君

外二名

四 政府ニ於テ國道ヲ直轄セサル様政府ニ建議スルノ件

提出者 宮城縣 土木部長

五 市内國道府縣道ノ管理並費用負擔ニ關シ政府ニ建議スルノ件

提出者 豐橋市

提出者 福岡縣知事

六 國道改良工事速進ニ關シ政府ニ建議スルノ件

提出者 熊本縣 土木課長

七 國道鋪裝促進ニ付政府ヘ建議スルノ件

提出者 神奈川縣 高座郡 茅ヶ崎町

新田信君

八 簡易鋪裝ノ研究促進ニ關シ政府ニ建議スルノ件

提出者 靜岡縣

關西道路研究會

京都市 土木局長

九 時局匡救土木事業ヲ繼續シテ執行スル様政府ニ建議ス

ルノ件

提出者

大阪府 市町村長會々長

宮城縣 土木部長

群馬縣 戶部彪平君外二名

茨城縣 土木課長

靜岡縣

山梨縣

和歌山縣

京都府

德島縣 知事

山口縣

岩手縣 西磐井郡町代表者

奈良縣 吉野郡十津川村長

千葉縣

埼玉縣

新潟縣

神奈川縣 愛甲郡三田村

外五ヶ町村組合長

十 道路改良費國庫補助金ノ未交付金ハ急速下付セラレム

コトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者

兵庫縣

新潟縣

靜岡縣

茨城縣 土木課長

十一 府縣道改良ニ要スル費用ニ對シ國庫補助增額方政府

へ建議スルノ件

提出者

群馬縣 戶部彪平君

外二名

十二 道路ト鐵道及軌道トノ平面交叉ニ關シ政府ニ建議ス

ルノ件

提出者

京都府

宮城縣 土木部長

兵庫縣 西宮市長

十三 道路ト鐵道若ハ軌道トノ平面交叉改良ノ場合ニ於ケ

ル費用ノ負擔ニ關シ政府ニ建議スルノ件

提出者 東京市長

鳥取縣知事

山梨縣

新潟縣

熊本縣土木課長

高崎市

外四名

山梨縣

十七 市長ニ於テ都市計畫事業トシテ執行スル道路工事費

ニ對シ國庫補助方政府ニ建議スルノ件

提出者 下關市

十八 道路ノ照明設備ヲ道路ノ附屬物ニ指定方政府ニ建議

スルノ件

提出者 東京市長

十九 道路照明設備ノ維持及管理ニ要スル費用ノ一部ヲ受

益者ニ負擔セシムル制度ニ改正方政府ニ對シ建議スル

ノ件

提出者 東京市長

政府ニ建議スルノ件

提出者 茨城縣土木課長

十五 舗装道路網ヲ完成シ道路改良費ニ對シ國庫ヨリ補助

スル様政府ニ建議スルノ件

提出者 新潟縣

十六 國立公園地域内ニ於ケル道路工事費ニ對シ國庫補助

方政府ニ建議スルノ件

提出者 和歌山縣

二十一 國ノ事業ノ爲ニスル道路占用ニ對シ占用料ヲ徵收

スル様政府ニ建議スルノ件

提出者 山形縣

二十二 道路改築工事ノ爲道路ニ存スル遞信省電柱、地下

線路、郵便函柱 自動電話ノ移轉ヲ要スル場合ニ於テ

右移轉費用ハ遞信省ニ於テ負擔スル様政府ニ建議スル

ノ件

提出者 靜岡縣

濱松市

山梨縣

和歌山縣

岡山縣

鳥取縣

岩手縣

兵庫縣

二十三 市街地ニ於ケル電信、電話線ハ速ニ地下線ニ改良

方ヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 靜岡市

二十四 軌道經營者ノ負擔スル道路維持修繕費ヲ他人ニ負

擔セシムルコトニ制度改正方政府ニ建議スルノ件

提出者 和歌山市岡山町合同電氣和歌山支社長

二十五 道路ノ改築修繕ニ伴ヒ道路敷内ニ在ル國ノ工作物

移轉ニ關スル費用ハ國ニ於テ負擔スルコトニ制度ヲ改

正方政府ニ建議スルノ件

提出者 熊本 市

二十六 道路ニ關スル工事ノ執行及其ノ費用負擔ヲ命スル

制度ニ改正方政府ニ建議スルノ件

提出者 沖繩縣 知事

二十七 カーブノ除去ヲ以テ道路改修ノ方針トセラレンコ

トヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 石川縣金石電氣鐵道株式會社

二十八 鐵道踏切停止時間ノ短縮ヲ鐵道省ニ建議スルノ

件

提出者 石川縣金石電氣鐵道株式會社

二十九 道路損傷負擔規程準則ノ制定ヲ政府ニ建議スルノ

件

提出者 宮城縣 土木部長

三十 道路維持修繕令ノ改正ヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 宮城 縣 土木部長

濱 松 市

三十一 道路工事執行令中一部改正ヲ建議スルノ件

提出者 靜岡 市

限ノ一部ヲ委任セラレンコトヲ建議スルノ件

提出者 大 阪 府

三十二 貨物自動車過積取締勵行方其ノ筋ニ建議スルノ件

件

提出者 石川縣金石電氣鐵道株式會社

會ニ於テ實行セラル、コトヲ望ム

提出者 新 潟 縣

三十三 土木事業ニ伴フ用地買收事務速成ノ爲稅務署及登記所ノ吏員増員方其ノ筋ニ建議スルノ件

提出者 和 歌 山 縣

三十八 道路工事用材料ニシテ普遍的ニ大量消費スル材料ハ國營生産トシ價格ノ低下ヲ圖ラレムコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 兵 庫 縣

三十四 道路關係職員ノ海外派遣ノ途ヲ講セラル、様政府ニ建議スルノ件

提出者 大 阪 府

三十九 ガソリン稅ヲ徵收シ路面鋪裝費ニ充當方政府ニ建議スルノ件

提出者 清 水 市

三十五 道路管理職員制ヲ地方產業職員制ト同一待遇ニ改

正方政府ニ建議スルノ件

提出者 靜岡 市

四十 土木事業ニ對スル一廉百萬圓未滿ノ起債ハ地方長官ニ限り任意之ヲナシ得ルコトニ政府ニ建議スルノ件

提出者 大 阪 府

四十一 道路研究機關ノ連絡統一ヲ助成スル様政府ニ建議スルノ件

提出者 關西道路研究會

田村、越知町、名野川町、愛媛縣中津村、久萬町）ヲ國道ニ認定方政府ニ建議スルノ件

提出者 德島縣知事

四十二 道路改良費ノ恒久的財源ヲ地方ニ附與方政府ニ建議スルノ件

提出者 兵庫縣

高知縣知事
愛媛縣知事

四十三 東京市ヨリ三重縣津市宇治山田市和歌山縣新宮市

串本町田邊町ヲ經テ和歌山縣廳ニ達スル路線ヲ國道ニ認定方政府ニ建議スルノ件

提出者 和歌山縣自治會長

四十六 山形縣ヨリ福島縣會津及栃木縣ヲ通過シ東京市ニ達スル路線ヲ國道ニ認定方政府ニ建議スルノ件

提出者 福島縣南會津郡伊南村外一ヶ村組合長

四十四 境港ヲ中心トスル道路網完成方政府ニ建議スルノ件

提出者 和歌山縣自治會長

四十七 名勝地、都市ヲ連絡スル道路施設ノ企劃、整備ヲ統制スルノ制度設定方建議スルノ件

提出者 京都市土木局長

四十五 指定府縣道德島市ヨリ高知市へ達スル道路（德島縣四號高知縣一號經過地德島縣小松島町、日和佐町、宍喰町、高知縣甲ノ浦町、室戸町、後免町）及高知市ヨリ松山市ニ達スル道路（高知縣二號經過地高知縣鴨

提出者 鳥取縣知事

四十八 國道十五號線ノ改良工事ヲ昭和九年度國ニ於テ起興セラレンコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 京都市府

四十九 國道十八號線ノ改良工事ヲ引續キ國ニ於テ起興セラレンコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 京都府

提出者 京都府

五十 關門連絡ノ計畫ヲ確立シ速ニ國ノ直轄事業トシテ施行セラレムコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 山口縣

提出者 山口縣

長崎縣

福岡縣

大分縣

佐賀縣

熊本縣

宮城縣

鹿兒島縣

提出者 香川縣

提出者 德島縣

高知縣

愛媛縣

五十四 指定府縣道本富田林線ヲ國道ニ認定方政府ニ建議ノ件

提出者

和歌山縣伊都郡紀見村長

五十五 山口縣道タル下關ヨリ益田ニ至ル山陰縱貫路線ヲ速ニ國道ニ認定セラレムコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 山口縣町村長會會長

五十一 國道三號線改良工事施行方政府ニ建議スルノ件

提出者 大分縣

五十六 二號國道全線ニ亘ル改修工事ヲ國ノ直轄事業トシテ速ニ施行完成セラレムコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 山口縣

五十二 二號及三號國道改良ニ關シ政府ニ建議スルノ件

提出者 福岡縣知事

五十七 大山國立觀光道路網ノ完成ヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 岡山縣

五十三 四國四縣ニ於ケル國道ノ改良計畫ヲ確立シ速ニ政府ニ於テ直轄改良工事ヲ施行セラレムコト建議スルノ件

提出者 鳥取縣知事

五十八 國道萬世大路ノ改修促進ヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 山形縣南置賜郡萬世村

五十九 滋賀縣下ヲ通過スル國道ハ未タ概ネ世運ノ實勢ニ

副ハサル憾アルヲ以テ政府ニ於テ根本的改善ヲ計ラレ

ンコトヲ建議スルノ件

提出者 滋 賀 縣

六十 奈良縣五條町ヨリ和歌山縣新宮町ニ達スル道路ヲ國

立公園觀光道路トシテ政府ニ於テ急速ニ改修セラレム

コトヲ建議スルノ件

提出者 奈良縣吉野郡十津川村長

六十一 高野山ト大峰山ヲ連結スル道路ヲ國立公園觀光道

路トシテ政府ニ於テ改修方建議スルノ件

提出者 奈良縣吉野郡大塔村長

六十二 指定府縣道ノ奈良大阪街道ヲ國道ニ編入方政府ニ

建議スルノ件

提出者 奈良縣龍田町長

外五ヶ町村

六十三 府縣道前橋新潟線ヲ國道ニ編入方政府ニ建議スル

ノ件

提出者 群馬縣馬 縣

六十四 國道二十五號線及三十三號線ノ路線ノ改良ヲ國ノ

直轄ヲ以テ施行セラル、ヤウ政府ニ建議スルノ件

提出者 長 崎 縣

六十五 甲府市ヨリ長野縣下諏訪町ニ達スル府縣道ニ認定

方政府ニ建議スルノ件

提出者 山 梨 縣

六十六 國道四號線仙臺市古川町間改修工事ヲ昭和九年度

ニ於テ國ニ於テ起工セラレンコトヲ政府ニ建議スルノ件

提出者 宮城縣土木部長

道路大會の開會に先ち、午前八時から臨時理事會を開い

て會場に於ける役割を定め尙視察班には必ず理事一名附添

ひ視察班を引率することに決定し、第一班には長岡、寛兩

理事、第二班には前川理事、第四班には牧理事、第五班に

は中川正左理事を煩すことになつた。

第二日

第一班視察記

第二日は視察日であつて、第一班から第五班（第三班中止）の四班に分れて視察することとなつた。第一班は兵庫縣下で阪神國道、尼寶自動車専用道路、六甲山ドライブエー、山上遊覽自動車道、神明國道、明姫國道などを視察する計畫である、此班の希望者は意外にも最多數となつて縣當局では可成其希望に應ずる様に努力せられたが、何分六甲山上の設備やら其他の事情が許さないので、參百五十名引受けられたが後更に四百五十名に増員することとせられた、縣當局苦心の程は察するに餘りある次第である。此日午前八時中の島公會堂前廣場に參集した、バスの臺數は三十三夫れにハイヤー八輛で總參加員四百六十名を算するので之をA組とB組とに分ち、A組は山本兵庫縣道路課長案内し本會算理事は此組に加はれた、車輛數二十一、B組は

阿曹兵庫縣道路主事案内役となつた、車輛數二十。定刻に至つてA組先づ出發し少時を経てB組之に次ぐ。大阪市内は北野大阪府道路主事先導した。途は公會堂より銚流橋を渡り梅ヶ枝町に出て左折し梅田新道から櫻橋出入橋を經、野田の踏切を越へて此花區上福島中五丁目に出た、此處から兵庫縣下神戸市界に至るまでが阪神を結付ける第二號國道路線阪神國道で京濱國道に次で去る昭和二年五月十八日竣工の式を擧げた近代的道路である。改築の延長は六里二十八町路幅は十五間乃至十八間で、内、橋梁は四十四橋を算する、中央部には軌道が布設せられ居る、總工費二千萬圓八ヶ年の歳月に涉つて施工せられたものである、路面は瀝青鋪裝又はアスファルトブロック鋪裝である、此坦々たる路上を四十有餘臺の自動車が西へ西へと走るのである。淀川大橋では欄干に釣竿を結付けて何かつておるを見たり一寸異觀である、神崎大橋を渡つて左門殿川に架する左門橋を過ぐれば此から兵庫縣となる、兩側の路傍樹銀杏の小樹が氣息奄々たるは何の原因ありてのことか折角の苦心も

まさに水泡に歸せんとする憐れな有様である。車窓から左右を展望すれば昔時はよしあしの茂り合ふ沮湖の地であつたが國道改築後の今では住宅に工場に月に日に造築せられ其移り行く有様は驚き入る計りである。一行は進んで武庫郡大庄村西大島に至り右に直角に國道と丁字型を爲せる尼寶自動車専用道にと進んだ。

尼寶自動車専用道は阪神國道自動車株式會社の經營である、昭和七年十二月に竣工したもので其延長約二里半幅三間半強である、前記大庄村西大島から北方に向ひ更らにやや北西に緩かなカーブをして寶塚の入口、川邊郡小濱村川面に至るのである、此終點から國鐵福知山線の驛、阪急電鐵の寶塚線及今津線連絡驛は目睫の間に在る、路面鋪裝はシートアスファルトで照明及保安信號の設備があつて駐車場は途中六ヶ所何れも有効路幅の外に設けられ此場所の總幅は十六間半に及んでゐる。所謂攝津の平野西寄りを寶塚に向つてドライブすると間もなく國鐵東海線及阪急電鐵神戸線と地下交又を爲して進む、稍中央の處で西宮から伊丹

町へ通ずる西國街道との平面交又地點があるが頗る危険を感ずる、此設備は一日も早く改良してもらいたいものである。右の方を眺めては日本三體白衣觀世音菩薩の安置せられておると聞く時友は那邊にありや昆陽の里はどのあたりか「有馬山いなの笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする」と小倉百人一首の中の大貳三位の歌はれた猪名野は見えはせずやなど話し合ひ霞む六甲左に眺めておる内に早くも終點に達した、A組は先づ方向を轉じてもと來た方に疾走し次でB組轉向し全車輛轉向を終へた處で少時車を駐めて休憩する。一同車外に出たが道の中央の白線を右に越えて休むのは命がけである、會社のバスは何の遠慮もなくハイスピードで疾走して來るから専用道路の初旅人には目を離さない、専用道路を後にして再び國道に出て西走する。また、く内に武庫川遊園地、甲子園も過ぎ西宮市我神社を左に見る、國道から分岐して我社前を海岸に出づる府縣道は立派に出來て數年前までは蛙の巢であつた田圃は市街地と變じておる、道路の完備は斯くまでかと心ひそかに賞讃し

つゝ夙川、芦屋川、住吉川の景勝も眼に止めず、今津御影や西郷、灘も通過して灘區八幡で右に篠原に出た、此處で今までの大阪市營バスを六甲越有馬鐵道株式會社のバスに乘換へ六甲ドライブウエーの一部を登り綱索鐵道土橋驛で下車、直に綱索鐵道車に乗る、車體は幾段にも造られ勾配ある停車場に伴はしておる、鐵道の勾配は二分の一強と觀られた所もある、途中驛で車を乗りかえた、登るに従つて溪谷から山頂へ向つて次第に佳景は展開するのである、此登山車中に客たること僅かに十四分間鐵軌の延長十五町許りである、山上驛に到ればA組先づ兵庫縣及神戸市主催の午餐會に臨みB組は六甲山上遊園地へ向ふのである、A組食を了へて山上に向へばB組は山上驛に戻りA組同様午餐會の食堂に入る、A、B兩組交替の食事計畫は頗る妙案である、視察總員を二組に分つたのも縣當局の苦心の存する所であるかが今更ながら感歎する。山上遊覽はA組もB組も山上驛前で山上遊覽バスに分乘する、表廻りでは車掌嬢中々案内なれておる、年齒も行かぬ身でありながらと感服

する。エー右の方に突出した處に見へまする岩が天狗岩で御座ります、徒歩で驛から五六分間、前面にまわりて見れば恰も天狗の面に似ております、こゝが六甲ゴルフリンクの入口で御座ります、今少しく進みますると左の方にゴルフ場が見えます、南の方遠く雲煙靄として居ります海が大阪灣で東、大阪から、西、神戸に至り長汀曲浦の絶景は一望の中に展開されて居ります、又東から西へ白帯を伸べたが如く見ゆるのが阪神國道で其大阪近く海が入込んでおります所が尼崎市で御座ります。夫れから武庫川遊園地や甲子園運動場も國道の附近に御座います、西の方人家が最も密集しております處が神戸市で和田岬から淡路島、紀淡海峽もあり／＼と見られます、少しく目を東に轉じますれば紀州の山々から高野、金剛、葛城、生駒の連山の雄姿など大自然の偉大な光景が繪巻物の様に展開されております、東の方近く高き嶺が東六甲で海拔九百米陸地測量部の標柱が立つて居ります、此處は遊園地の入口で御座りますどうも有難う御座りました、御遺れ物は御座りませんか」

といつた口調で案内する、山上遊園地で四方の眺望を恣にし東六甲登山口で裏廻りの遊覽バスに分乗し車掌嬢の流暢な調子で八代池、雲ヶ岩、梅ノ木谷、奥山谷、高山植物園や山陽山陰の連峯翠巒の雄大な風景を案内せられつゝ山上驛に戻り着く、西六甲山上の遊覽は相當の設備があつて不圖も其惠澤に浴することを得たが東六甲との連絡をたもち交通の便を具ふることが必要と思ふのである、之れが即ち六甲縦走道路の計畫ある所以であるであらう。(六甲縦走路の計劃に就ては本誌八年十一月號三二頁以下參照)再び綱索鐵道の厄介になつて下山し篠原で大阪市營バスに乗つて阪神國道に出て神戸市内を阪神電鐵地下工事を見ながら左折阪神ビルを左に米利堅波止場入口で右に海岸通を宇治川に出て川に沿ひて舊相生橋跡を経て湊川神社前に着いた、二百七十年前水戸の義公が建立した「嗚呼忠臣楠子之墓」を拜し別格官幣湊川神社に參詣する豫定であつたが交通其他の關係から車内で遙拜することとし下車せずして兵庫驛の方向に進行し一路西に疾走した、湊川公園も素通り

して、平知章の碑が新湊川々畔にありと聞くのみで御船山舊蹟を右にして行くは行くは高尾山の麓路を、行平月見の松、武庫離宮、須磨寺、須磨の關跡、一の谷、敦盛塚は案内記にて其所在を知るばかり、過る日沈没した屋島丸の櫓頭は何處に見ゆるかと車窓から海面を眺めて大會の來賓として招待せられ故宮崎縣内務部長階川良一氏の冥福を胸中に祈りながら境川に達した。此處から明石市水上町に至る間が神明國道で其延長約二里半路幅平均約七間で總工費五百七十四萬圓、大正十二年七月認可を受けて起工し今春五月二十二日舞子公園で竣工式を擧げた國道第二號線の一部である。路面表層は瀝青混凝土を以て鋪裝す、其經過するの地は須磨、鹽屋、垂水、舞子、明石を包擁する。北方高く鐵拐山聳へ立ち餘伏山其裾に控へ鹽屋の濱は女波男波に打ちよせられて居る、南方は明石海峡を隔て、播磨灘に臨み、「わきもこを行きて早や見ん安波治之麻くもゐにみえぬいへつくらしも」と詠ぜられた淡路島は呼べば答へんとするものゝ如く「淡路島通ふ千鳥のなく聲に幾夜めさめぬ須

磨の關守」の古歌を偲ひ出づるのである、此邊風光明媚加ふるに豊富なる史蹟がある地で颯々として車窓を打つは峯の嵐か濱松風か。路面は坦々として恰かも磨かけるかと疑はる。舞子の濱の遊歩道には時さへ許さるるならば暫く休ら

ひて汐風に袂吹かせて夕千鳥を聞き或は行きこふ眞帆片帆の數よむなど興あることと思へども今は詮なきことなれば唯車内であれやこれやと噂し合ふのみである、やがて明石市内に入り工事中の明姫園道を進み市の西端和坂の橋を越へて引き返し明石公園に休憩する、此處では明石市から茶菓を饗せられ、芝生の上に三々五々今日の視察を語り合ふて時の移るを忘れたが大阪府市の夜の演劇招待もあることとで兩組一列となり疾驅して豫定時刻に先つこと十五分何等の故障なく歌舞伎座前に歸着した。(丑生)

第二班視察記

氣遣はれた天候もカラリと晴れて絶好の視察日和である、午前九時三十分大阪中央公會堂前に集合、既に準備を

整へて會員を待受けてゐる市營バスの車輛にそれ／＼配當の番號により乗車する、乗り終ると自動車係の合圖と共に十五人乗二十餘臺白塗の車輛が前川理事の車を先頭に威勢よく京都を指して出發する。

「皆さんドーゾ煙草を御自由に召上つて下さい」カキ色の制服を着けた若い女車掌が宣言する、東京で黒服スカートの女車掌を見つけてゐる自分達には、バンド附青襟カキ色男裝服に縁附の帽子を戴いた女車掌の異様な服装は見なれぬ圖である。

間もなく京阪國道に出る、延長約十里大阪京都兩府が六ヶ年の日子と七百萬圓近くの費用を費して築造したと云ふ所謂近代的道路である、沿道を右顧左眈しながら覆並守口にと進んで淀川堤防兩用道路に出る急に幅員が狭くなつて團扇の風を送る部分から柄の部分へ出て來る様な感じである、マイ堤防を使つてゐるのだから止むを得まいが早晚何とかせなければなるまいと云ふ氣がする。

「自動車に乗つてゐて道路の工合は大阪府下と京都府下と

「ドツチが感がよいか」と連轉手に聞いて見る。「ソラ京都の方が路面工事がよく乗心地がいゝですナー」と云ふ返事である、大阪府の方が幾分路面費を節約してゐる結果でゝもあらう。

橋本から向ふが京都府である、石清水八幡宮を右に見て御幸橋を渡る、先頭の車で橋の中期から後を振り返ると、直線の道路を銀色に光つた自動車が規則正しく間隔を置き一列に相連なつて進行してゐる、全くの壯觀だ、車内の誰もが「綺麗グナー」を連發する。

天王山、淀城址、淀競馬場、城南離宮等を車内より望むで鳥羽大橋を渡る、下を流れてゐるのがアノ有名な京都女を美人たらしめると云ふ鴨川である、「誰か降りて顔を洗つて見ないか」洗ふ丈では駄目ださうだよ、飲まなけりや」「チャイついでに飲んで來りやいゝよ」顔の美しからんことを望むのは豈女のみならんやである。

東寺の前を過ぎて四條通に出る、六大都市中京都市が初めて試みたと云ふ無軌道電車を視察して、四條通を東へ圓

山公園をぬけて、都ホテルに着く、少憩後京都市主催の午餐會に臨む、ホテル三階の大ホールで洋食の御馳走である、齋藤知事の府市代表しての歓迎の辭、前川理事の會員代表の謝辭で型の如く進行食事を終つて又もとの自動車に分乗隊伍を整へて京津國道を東へ大津に向つて出發。

京津國道は大津市内部分約千五百米の改修を滋賀縣で施行した外は昭和六、七年度に亘つて内務省直轄で改修した道路で相當立派な出來榮である。

車内より蓬坂關址を偲び石山寺を右に見て南郷の洗堰に着く、増水期になると琵琶湖畔の町村と瀬田川下流の町村とが、開ける、開けるなと競り合をやると云ふ上下流の利害を挟むで重要な役割を務めてゐる堰ださうである、此處で滋賀縣差向の汽船二隻に分乘して瀬田川を琵琶湖へ指して上つて行く、船内でビール、サイダーに壽司サンドウィッチの折詰の配給を受ける晝食後間もなくで餘り腹も減らないが折角の御馳走だから、ビールの栓を抜きコップを傾けながらポツ／＼頂戴する、滋賀縣は人造絹糸の製産地と

やらで人造絹糸製の風呂敷を一個頂戴に及ぶ、滋賀縣寄贈大丸納品高級レーヨン應用友禪模様風呂敷と云ふことである。

汽船の一隻に滋賀縣の三樹内務部長が乗り込み各室へ顔を出して挨拶をして回つたのは一般會員に好感を與へた様である、面白く感じたのは船長？ の琵琶湖沿岸名所舊蹟の説明である、メガホン片手に極めて柔らかな物腰に、巧な姿態表情で説明する所はユーモアに非ずしてユーモアタツプリと言つた恰好である、説明を聞き乍ら瀬田の唐橋の下も潜つて何時の間にか濱大津に着く此處で船をすて、再び自動車上の人となり、もと來た道を一路大阪に引返し午後五時半頃歌舞伎座に到着、大阪府市主催の觀劇會に臨み雁治郎一座の至藝に恍惚として、一日の疲勞を忘れ歡を盡して十時頃それぐの宿舎に引上げたのであるが、誠に有意義な一日であつた事を喜んだのは決して自分のみではなかつたことを信するものである。(F生)

第四視察班

大阪府改良の府縣道天王寺堺線と内務省直營の阪堺國道とを視察して和歌山縣へ向ふのが第四視察班であつた。此の班の所屬人員は百三十名であつたが、百六十名に増加した、公會堂前出發の時刻も豫定の九時より後れた、大阪市住吉區阿部野堺筋六丁目から堺市北花田口町まで延長七・一浬(約一里三千町)幅員二三・六三米工費三百十四萬三千四百九十七圓と呼び擧げるのが天王寺堺線である。堺市の部分はまだ未完成であつたが其の外の部分は悉く近代式の構造に仕上つた立派な道路であつて自動車の快走に應ずるは勿論交通量の増加に對する用意も亦十分と思はれた。堺市海山通りから泉北郡大津町に至る延長一・九浬(約三里)幅員一六・〇米一二七・二七米工費四百五十五萬六千二百十圓の阪堺國道は昭和六年着工のものであるがまだ工事中の箇所が多くあつた、殊に路の中央に軌道敷が豫め設けられてあることは時潮に逆航ではないかとの感を抱いた。まし

て附近は白砂青松の觀光地と視たから益々其の感じを強めた。愈南海電車の濱寺驛にバスを乗棄て、電軍に乗換へ和歌山市へ向つた。電軍は秋の實のりの黄雲の間を進んで行く。此の電軍は急行と聽いて居たが各驛停車するので訝かしく思ふものもあつた。やがて和歌山市に着いた清水知事は態々停車場に一行を迎へ、懇懇に案内されて和歌の浦は萬波樓に招待せられた陽も亭午を過ぎたから少憩後一同宴席に着いた、宴半ばに清水知事より大要下の如き挨拶があつた。

「昨一日大會の議事に御疲勞の處にも拘はらず我和歌山縣の道路視察にお出で下された事は甚に欣幸と存する次第であります。併しながら本縣の道路は折角の御視察に値ひずる場所なく、此點を甚だ遺憾に存じますが次回御來縣の時は本縣の道路も必らずや面目を一新することゝ存じます。さて本席は粗餐を差上げましたが、緩々召上つて、豫定の御視察を了せらるゝことを」と之れに對へて中川理事は「清水知事は曾て内務省に御在職中我道路改良會の爲めに大なる御盡力を願つたことはまだ新らしき過去の事實であります。

す。今や閣下が本縣にお出でになつて道路大會第四班の一行を御款待下さる事は眞に因縁淺からざる感がいたしました。一層の情懷を覺ゆる次第であります。殊に善美なる御餐に與りまして深く感謝する次第でありますと一同に代つて挨拶があり宴中校書連のあしな節「和歌の浦にはヨ、アー名所がござる、アラヒテノシヨ、御座れあしだに、田鶴もゐる田鶴もゐる、ヨイ／＼／＼／＼ヨイヤサ」外數番の演藝があり、宴席は峭岸上の三層樓和歌の浦を一望に收むる勝景境、酒饌は美にお酌は艶麗とあるから一同心残りのやうにもあつたが、行く手に視察を控えての事であるから各相勵まして席を辭し不老橋を経て玉津島鹽竈兩社に參拜紀三井寺に向つた、本縣の道路は僻目かは知れぬが花崗岩質から成立つてるやに見られ、關東地方の火山灰質と異なり少し手入をすれば立派な道路になると思はれた唯地勢は如何にも所謂道路網を張るに困難のやうにもあるなど惟ふ間に紀三井寺に着いた、此處の眺めも「和歌の浦に潮みちくれば瀉をなみ芦邊をさして田鶴なき渡る」古歌の野趣は

見られざるも新和歌の浦にならぶ、よい景色である。眞言宗西國三十三ヶ所第二番の札所「古里やはるばるこゝに紀三井寺、花の都も近くなるらん」チリチリンの哀調に響く名所である。兎に角時間が遷つたので復の時を期し午後四時發の南海急行目懸て先を急いだ始めて見る和歌山の地、聞きしに勝る風光の美、清水閣下の謂れる通り道路が面目を改むるならば、雅俗共に彌が上にも此地に踵を接するであらう又紀州蜜柑、紀州ネル、梅干、除虫菊等は其の産額と價格とを増すことであらうと思はれた、摺筆に臨んで清水閣下松崎内務部長上田土木課長各位に深謝する次第であります。(K生)

第五班

此班は奈良方面である、第一班も第二班も有益な視察をなし得ると思はれたが青丹よし奈良の舊都に往古を偲ぶも亦興味あることと思ひ此班に加はることとした。二十六日の朝八時三十分中の島公會堂前に集合し大型バス八臺に分

乗し九時に至つて出發した、途を北濱、天満橋六丁目に取り大阪城を左に府廳を右に見て上本町に出た、三百餘年前徳川軍の詭計に因て埋められた大阪城の外濠は此邊であつたであろうか、萬一今日まで存して居つても都市計畫事業で立派に埋め立てらるゝ運命の濠であつたなと胸中に思ひ浮べらうちに、大軌上六終點、天王寺、阿部野も經過し幹線道路改良計畫として施工せられた大阪奈良線に乗り入つた、此改良線は大阪市住吉區平野元町六丁目八番地先から南河内郡國分村(奈良縣界)に至る延長約三里十五町(一三四三七米餘)で幹線道路改良事業に都市計畫、失業救済、産業振興を兼ねて施行し總工費百八十四萬餘圓を投じたもので本年九月下旬竣工を擧げたのである。途中昭和電力會社の宏壯な變電所を仰ぎ見つゝ、何時とはなしに柏原驛に着した。同驛で關西本線に乗る、車窓を透して近頃竣工した國豐橋を見る。鐵路は漸く縣道と離れたが龜ノ瀬近くになると鐵路と縣道とは大和川の峽谷に迫るのである。過般來世の耳目をそばだてた龜ノ瀬隧道崩壞の情況や大和川筋

龜ノ瀬附近地之の概況などを車窓より眺め得た。案内係より詳細な説明を聞かされそゞろに當時の慘狀を想ひ戰慄を禁じ得なかつた。目下工事は盛を過ぎたるにや大なる活動は見られない、列車は進んで大和の平野を通過する、彼の法相宗の大本山で千三百餘年前推古天皇と聖德太子の發願で建立せられた法隆寺の棟々や高さ二十五間で上ほど狭く軒が強く突出て居る五重の塔を仰ぎ見て千早振神代も聞かぬ龍田川や嵐吹く三室の山は那邊にか生駒信貴の山々も近きがあたりと思ふうちに小鹿鳴く奈良の驛にと列車は到着した、縣知事・市長各位の出迎を受け別途を迎り來た本會理事牧博士一行と合流してオープンカー二十餘臺に分乘し國道奈良線をドライブする、此國道改良工事は未だ其の緒についたばかりであるが夫でも出來上りの部分は立派な舗裝を施し幅員も一二米四である。視察隊一行は一旦奈良驛に引返して更らに東方に進み「明月や池を廻りて夜もすがら」ともしやれては居られず此猿澤池を右に見て花松、縣廳、師範學校、博物館の間を通り公會堂に着いた、離れ座

敷で少憩の後宴會場に導かれた、久米知事森田市長の挨拶があつて牧理事は奈良市道の舗裝に關する感想を述べて答辭に代へられた、食事後座敷で鹿奇せの催があつた、園丁が呼子の笛を吹くと其音を聞きゝて百餘匹の鹿が群り來る、手に手にせんべいを與ふれば鹿は嬉々として之を食ふ、其姿の可愛らしく人馴れた素振りに興の盡くるを知らない觀がした。午後一時を報するや公會堂を立ち出て丸窓梅林をすぎ春日奥山下ドライブヴェーに差しかゝつた。沿線の森々たる林相は奈良の自然美に一段の光彩をそへて居る、今は昔を語る石佛あり岩窟あり、又溪流ありまことに驚嘆すべき神秘境である、一行は延々長蛇を連ねて三笠山頂に達した、此處からは古都奈良を一望の裡に收め大和平野の全景山城平野は眼前に展開せらるゝ、村瀬奈良縣土木課長から懇切を極めて奈良朝時代の都市の概況を説明せられ、大極殿跡其他の舊跡を偲ぶことを得た。何時までも見あかぬ山頂の絶景を心惜しくも後にして一同は車上の人となつて再びドライブヴェーを走り春日神社前にて下車す。徒歩石段

を上り、ものふりた春日燈籠の敷よみつゝ南門より参入して神殿につかづく、崇嚴の氣をどろに身に迫る感がした。更らに自動車に乗り嫩草山の麓を走つて二月堂三月堂太鐘樓をハイスピードで見物し東大寺に詣で大佛殿を拜して公園の密林に入り三々五々萬葉植物園鹿飼育場を視察し南圓堂北圓堂を過ぎて大軌奈良に着し此處にて自由行動を取ることとなつた、大軌奈良線で歸阪し半日の視察を回顧すれば僅少な時間で奈良の古都を偲び古美術や古代建築や自然美などに心ゆく計り浸ることを得たのは忘るべからざる快事である之れも大阪府奈良縣兩廳の當局奈良市の方々の懇篤なる取なしによつた賜である。茲に滿腔の謝意を表して擲筆する。(K S 生)

X

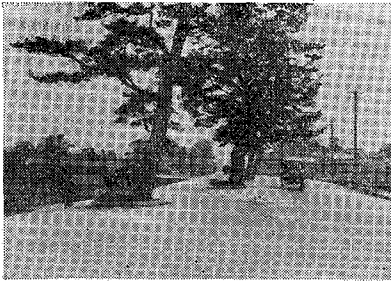
X

X

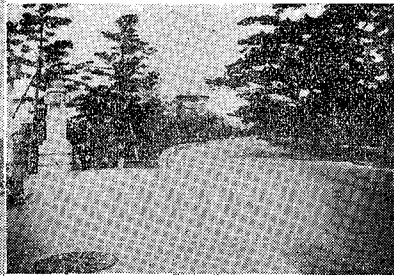
X

X

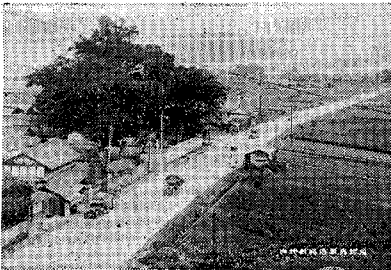
X



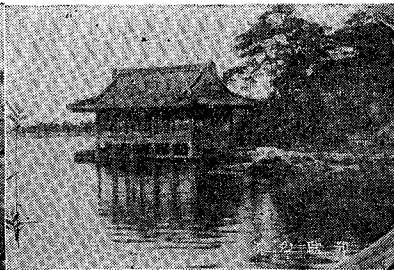
近附野牧道國阪京 班二第



道歩遊道國明神 班一第



内村紀志線良阪大 班五第



浦の歌和 班四第